

令和３年度 第１回三郷市地域福祉計画推進懇話会 会議録

会 議 名		第Ⅰ回三郷市地域福祉計画推進懇話会
開 催 日 時		令和３年Ⅰ０月２６日（火） 午後 Ⅰ時３０分～
開 催 場 所		三郷市役所６階 全員協議会室
出席者氏名（敬称略）	議 長	小橋 恒夫
	委 員	小橋 恒夫、田中 勝貴、山本 康博、藤井 紗和美、山本 健司、 小野瀬 尚美、茂木 聡美、生田 和伸、高橋 智子、石渡 弘子、 加藤 明子、草薙 博昭、横内 浩一
	事務局	福祉部：妹尾部長（委嘱書交付式終了後 退席） ふくし総合支援課：五十嵐課長、木村係長、齋藤主任、橋本主事
	記録者	事務局 齋藤・橋本

発 言 者	会 議 内 容
事務局	１ 開会 ２ 三郷市地域福祉計画推進懇話会委員委嘱書交付式 ・福祉部長挨拶 ・会長挨拶 ・資料確認 ・委員自己紹介 ・事務局職員紹介 ３ 事項 （１）令和２年度地域福祉計画関連事業調査結果について ・調査結果を事前に送付し、委員から寄せられた意見・提案等に対する関係課の回答を取りまとめた資料として、「令和２年度地域福祉計画関連事業調査結果に関する質疑応答について」を配付。資料に基づき、事務局から説明。 [質疑応答] ・特になし ■次期計画の見直しについて
議長	事項（２）に入る前に事務局から次期計画の見直しについて説明をお願いします。
事務局	それでは、次期計画の見直しについてご説明させていただきます。先ほど、ご説明させていただいた事項（１）の「令和２年度地域福祉計画関連事業調査結果」については、「第３次三郷市地域福祉計画」に沿って行われている事業であります。その計画は、令和４年度が最終年度となり、令和５年度からは、

事務局	新たに「第4次三郷市地域福祉計画」に沿った事業が進められることとなります。そこで、市では、令和4年度を計画の策定年度として、次期計画の見直しを行うこととなります。つきましては、委員の皆様には計画策定の前段階として、本日の懇談テーマである「地域の繋がりを持続けるために必要とを感じるもの」についてご懇談いただきたいと考えております。ご懇談いただいた内容を踏まえ、計画策定に向けて検討してまいりたいと考えております。 (2) 懇談テーマ「地域の繋がりを持続けるために必要とを感じるもの」 ①自分にとって必要なもの ②地域にとって必要なもの ③公的な助けとして必要なもの
議長	それでは、事項(2)、懇談のテーマであります「地域の繋がりを持続けるために必要とを感じるもの」について、委員の皆様には、ご懇談をいただきたいと思います。まずは、事務局から今回のテーマの主旨について、説明をお願いします。
事務局	本日委嘱を受けられまして、初めての方もいらっしゃいますので、まず改めて「地域福祉」についてご説明いたします。「地域福祉」とは、それぞれの地域において、そこに暮らす住民が、安心して暮らせるよう、地域住民や公、民間の社会福祉関係者が互いに協力をし、地域社会の福祉課題の解決に取り組む考え方です。「地域福祉」という言葉につきましては、平成12年に「社会福祉法改正」で初めて定められ、「地域福祉計画」の策定、推進が位置付けられたものです。日本の福祉の歴史を振り返りますと、はじめは戦後復興に向け、各福祉法を施行し、行政の措置として位置付けていましたが、その後経済成長の高度化、そして経済大国として肩を並べる国へと発展しましたが、同時に核家族化、都市への人口流出など、地域社会への影響や、変容が生じることになりました。こうした背景に、さらに高齢化社会を迎え、福祉的ニーズは細かく多岐にわたり、公の福祉だけではだんだんと解決しえないものとなってまいりました。これが、「地域福祉」の必要性を社会福祉法で定めた背景となります。 「三郷市地域福祉計画推進懇話会」はその推進に向け、行政施策の評価や、課題に対する意見、提案をお聞きする機会として、これまで進めてまいりました。しかし、せっかくの「懇話会」という機会でございますので、今回から「地域で課題を感じること」や「お互いの顔が見える関係づくり」などに対しての、忌憚ないご意見をうかがう機会を懇話形式で設けさせていただきました。皆さんが普段感じる、「地域のつながり」は強いものなのでしょうか、また弱いものなのでしょうか。強く感じる方は、その地域に何か良さが、また弱いと感じる方は課題が存在するものと思います。本日は「地域のつながりを持続けるために必要とすること」として、「自分にとって」「地域にとって」「公の助けとして」と3つの視点から、忌憚ないご意見を賜ればと思います。よろしくお願いいたします。
議長	それでは続いて、どのような意見等が必要であるか、具体的な内容をテーマごとに事務局から説明をお願いしたいと思います。はじめに「①自分にとって必要なもの」について、事務局から説明をお願いします。

	■テーマ①「自分にとって必要なもの」
事務局	三郷市地域福祉計画では、「自助、互助、共助、公助」の４つの助けが相まって、地域福祉と考えております。はじめの「①自分にとって必要なもの」については、「自分として取り組める、行動、活動」と読み替えていただいてもよろしいかと思います。自助にあたる部分としてご意見を賜れればと思います。
議長	事務局から説明がありましたが、何か質問等がありますか。 どなたかきっかけとなるようなご発言、ご質問をお願いします。
委員	周りの保護者の活動や生活の実態を見ていると、働き盛りの３０～４０代が、割と運動不足であるように感じます。健康管理の観点からも、５０～６０代になったときに歩けなくなってしまうような歳の取り方をしないよう、小学生・中学生の親世代である３０～４０代の運動を広く推進するものがあつたらいいと思います。日頃から運動をしている人は、そういうものがなくても運動すると思いますが、何かきっかけとなるものがあれば、日々の生活に忙しい世代でも取り組むことができるのではないかと感じています。
議長	このことについて、事務局から何かありますか。
事務局	きっかけ作りのお話がありましたが、これは行政側の仕掛けや呼びかけといった取り組みも必要になるかと思います。地域の中でなかなか推進されない事項について、初めのきっかけ作りがつかずきどころとなり、地域の中できっかけを考えてもなかなか先に進まないかと思います。特に健康管理、スポーツの面でご意見をお伺いしましたので、今後、スポーツ振興課等とこの情報を共有したいと思っています。
議長	ほかにどなたかご意見・お考えを聞かせていただけますでしょうか。
委員	今の意見と少し似ていますが、私は３人の子どもを育て、６５歳までずっと働き通しだったため、地域に目を向けることや体を動かすことについて、まったく考えていませんでした。６５歳のときに仕事を辞め、何十年も暮らしているのに三郷市のことをまったく知らないという状況だったので、母子愛育会に入り、三郷のことが少し分かるようになりました。続いて、地域に根をはらなければいけないと思い、自治会の役員に顔を出すようになり、市と自治会について分かるようになりました。そして、それらをこなしていくには、自分の体が健康でなければいけないと思い、自分で体操ができる場所を探し、それから約９年続けています。先ほどの意見にもありましたが、働いているかたは、運動できる時間帯と教えてくれる先生の都合との兼ね合いも大変なのではないかと思います。また、時間があつたら何かやろうか、ウォーキングをやろうか、散歩をしようか等、各自が自分自身で考える必要があると思います。
議長	ほかはどうでしょうか。ご自身に当てはめてみて、のお話でも結構です。
委員	私は民生委員・児童委員を約１０年間やっています。私の町会は４５０世帯ありますが、民生委員は２人だけです。そのうち、民生委員が主に担当しているのは、７５歳以上の一人暮らしと７５歳以上の家族で、４５０世帯のほんの

委員	一部となります。昨年、地域のかたに呼ばれて訪問したところ、民生委員が把握していない80代のお年寄りと50代の障がいのあるかたの世帯でした。相談を受け、地域包括支援センターに連絡し、すべて対応を取っていただきました。そのようなことがあり、私たちも本当はすべての世帯を把握したいのですが、なかなか450世帯を2人で把握するというのは不可能で、今回は地域包括支援センターを活用して本当に助かりましたが、何か良い方法がないかなと感じた次第です。しかし、そのお年寄りのかたは、それまで誰からも面倒を見てもらってなかったのですが、その後は週2日お風呂に入れてもらい、週2日マッサージに来てもらい、週2日買い物してもらっているとのことで、この間は死にそうになったけど今は元気だよと話がありました。そういう輪を少し広げてあげられたらいいなと感じました。
議長	各町会・自治会もそうだと思いますが、今、高齢化が加速していて、何か地域での繋がりをもっとも、そのきっかけとなる場面、人、コミュニケーションの場が、不足しているのかなという部分もあります。特にこの2年間は、私の自治会でもコミュニケーションの場としての夏祭り等を何も開催できず、この立て直しも大変だと思っています。このような苦労を、皆さんもお持ちではないかと思っています。ほかに何かございますか。
委員	私は老人クラブで、高齢者のかたを常に把握するよう努めています。高齢者の中には、段々と認知症の症状が見られるようになり、自分の言いたいことや過去のこと等、色々なことをお話するかたが多いです。そういったとき、私自身は聞くことに徹しています。話し終わった後、言いたいことを全部言って元気が出た、良かったと言ってくださるかたが多いです。私自身も高齢ですが、私も自治会の方々とは常に面識があるようにしています。また、この間の地震のときも、高齢の一人住まいのかたが多いので、翌日、一日がかりで「どうでしたか、何もありませんでしたか」と聞いて回り、お互いに安心できました。高齢者は徘徊等もあるので、道端で何か様子がおかしいなと思ったときは声を掛けて優しく話を聞く等、相手が安心できるような態度で接しています。一人で寂しく、話を聞いてくれる人がほしい高齢者が多いという現状があると思います。話を聞いてくれる人がいないとか、人に会うのが嫌だとか、そういうかたも多いと思いますが、根気強く、まずは挨拶など、そういうところから入って行って、少しでも相手が気持ちを開いてくれるようになっていけば、高齢でも元気になるのではないかと思います。老人クラブでもそうですが、私個人としても出来る限り、自分が動ける範囲でやっています。
議長	ありがとうございました。ほかに何かご意見、お考えはございますか。
委員	私は普段、障がいを持ったかたの就職の訓練をしている事業所にいます。事業所は4階建ての建物の1階で駅が近いため、日中は不在の住民が多いのかなと思っていました。あるとき非常ベルが誤作動し、外に出てみると、上の階から見たこともない住民の方々が下りてきて、お互いに「何があったんでしょうね、通報しましょうか」など声をかけ、コミュニケーションして、消防が来て事なきを得たということがありました。変な話ではありますが、そういったイレギュラーなことによって、お互いの顔が見えるっていいなと思い、おそらく自治会にも入っていない住民が多いようなアパートですが、地域を繋ぐという意味では、防災訓練のようなものが非常に良いのかなと思います。

議長	ほかに何かございますか。 (発言なし)
議長	貴重なご意見をいただきました。それでは、限られた時間でもございますので、次に進めさせていただきたいと思います。続きまして、②「地域にとって必要なもの」について、事務局から説明をお願いします。 ■テーマ②「地域にとって必要なもの」
事務局	地域につきましては、皆さんが暮らしている生活圏はそれぞれ特色があり、違うものであると思います。ここでは、冒頭の懇話会のテーマの趣旨についてのご説明にありました、それぞれの地域において「地域のつながり」を感じる良い点、また課題とを感じる点、課題に対し、「こんな地域活動があると、つながりが強くなっていくのではないか」といった、ご意見を賜れればと思います。これは、互助、共助にあたる部分としてご意見を賜れればと思います。
議長	今回参加いただいている委員の皆様の中には、町会長をやられているかたもおられると思います。事務局から話があったように、地域で抱える問題、あるいは参考というような立場で、お考えやご意見ををお願いします。ご質問でも結構です。
委員	課題だけでもよろしいでしょうか。ここのところ何年か、わが町会では老人会や子ども会がなくなり、元々地域で持っていた相互に顔見知りになれるきっかけ作りの場がほとんどなくなっております。これをどうしたら復活できるのかという点ですが、なくなった経緯としては、老人会は会長がなかなか決まらず、子ども会についても会長の引き受け手がなく、自然消滅という形です。わが町会は元々の住民が少なく、ほかの地域から来たアパートのかたや新築の建売住宅のかたが結構います。中には町会自体にメリットを感じないというかたもいて、特にコロナが始まってから、メリットがないので辞めたいというかたが続出しています。また、コロナ禍の影響で色々なことを考えても何もできず、町会の新年会も今年は中止で、来年はどうしようかという状況です。落ち着いた状況のときに開催しようとしても、また感染者が増えたらどうしようか等、そういった課題がかなりあります。
議長	ほかの町会についてはどうですか。
委員	三郷市には１２７の町会・管理組合等があり、各長のかたはやはり大変だと思っています。色々な町会があり、町会長を継続的に１０年・１５年・２０年とやられるかたがいれば、４年・６年程で交代するかたもいます。今までの町会の殻を破り、新しく色々なことに挑戦するかたもいます。しかしその人が、自分を過大評価して、こういうことをやりたい、ああいうことをやりたいと色々なことに手を出すと、上手くいかないことが多いです。私の地域には複数の町会があり、私は地域の連合町会の会長をやっています。連合町会では年間を通じて何回か町会長が集まり、各町会の活動等について話を聞き、良いことは参考にする等の活動をしていますが、やはり若いかたは色々なことをやっているように思います。防犯にしても、防災にしても、色々やるかたもいますが、長続

委員	きしないことが多いです。町会を良くしよう良くしようという意気込みは分かりますが、自分の力だけで全部まとめて動かすのは非常に難しいです。一人一人の意見を聞きながら行うのは非常に難しいので、まずは町会の人とコミュニケーションを上手く取ることが第一ですが、これにはやはり年数がかかります。2年・4年程の任期で、町会のかたとコミュニケーションを取ろうとしてもなかなか取れません。私は長くやっているんで、会えばすぐに通じるようなところがあり、その辺りは利点かなと思っていますが、やはり町会長さんは大変だと思います。自分ではこういう風にやろうああいう風にやろうと思っても、不平不服でなかなか人が集まらない等、このようなテーマは永遠のものであり、各町会長さんの裁量で、上手くまとめていただくほかないと思います。
議長	町会・自治会の立場からすると、町会・自治会は間違いなく「地域にとって必要なもの」だと思いますが、今のお話にあったように、会員の減少やなり手の不足によって存続が危ぶまれている部分があり、非常に危惧しています。ほかに何かございますか。
委員	私は町会で防犯部の部長をやっています。今年はコロナ禍ということで、防犯の見守り等ができないので、照明が切れているところを確認して整備を進める等、設備面での活動を町会として重点的に行っています。私の町会でも、今の町会長に代わったときに子ども会を復活させようという動きがあったのですが、小学生の親世代は共働きがほとんどのため役員をやるのが難しく、お金を出すことはできるが、運営の方ができないので復活は難しいという結論に至りました。しかし、小学校の学区内に子ども会のある町会が少ないため、有志の保護者たちが、PTAとは別の団体として小学校単位での子ども会を発足させ、夏祭りや、子どもたちが体育館を使って自由に遊ぶ機会を設ける等の活動を行っています。町会という単位では人が集まらなくても、有志で小学校単位まで範囲を広げると、行えることもあるのではないかと感じるようになりました。また、同じ小学校の保護者から言われたことですが、これまで市民のかたから公園として提供いただいていた土地が、代替わり等を経て利用できなくなったところが近所で2か所程あり、子どもたちの遊び場が少しずつ減っています。子どもたちからはボール遊びをしたいという声がよく挙がるのですが、道路への飛び出し、何か物を壊してしまわないか等の懸念により、公園で遊べないという実態があります。子どもたちからは「ボール遊びができる場所を作って」との要望があり、ボール遊びのできる場所があると、子どもたち同士のコミュニケーションがもっと円滑になるのではないかと思います。また、小学校の校庭の空いている時間帯を明確化し、その時間帯を開放していただくことをもう少し積極的に行ってもらえたら、遊び場をもっと確保できるのではないかと子どもの親として思いました。
議長	ほかに何かございますか。
委員	地域のエピソードとして思い出したのですが、事業所での訓練の中で、みんなで3キロ程のウォーキングを行っています。近隣には農家さんが点在しており、途中で会話をしたり、たまに弾かれたものをいただいたりしています。講師のかたからも、そうやって繋がりが出来てきたと聞いています。ある夏の暑い日、ふらふらしてしまい自力で帰ることが難しい子が出てしまったときに、その農家のかたが車を出して事業所まで送ってくださったことがありました。

委員	地域の繋がりというか、普段から顔見知りになっていたことによって、非常に助けていただいたというエピソードがございましたので、ご報告させていただきます。
議長	ほかにそれぞれの立場から、ご意見、お考えはございますか、
委員	私どもは社会福祉協議会なので、まさしくここを推進しなくてはいけない立場ですが、本当に難しいテーマで今もきちんとした答えが出せない状況にありますが、私自身の業務の中でも、先ほどおっしゃられていた地域の繋がり、顔見知り、その辺りがキーワードになるのかなというところが何点かございます。先ほど地域包括支援センターというキーワードが出ておりましたが、私がそこに配属されて6年ほど仕事をしていたときにも、私たちが訪問しても1～2時間が限度になってしまうため、そのとき集中的なケアはできるのですが、毎日の生活を見守ることはできず、残りの毎日はどうしても地域のかたに見ていただき、地域のかたから連絡をいただき、また私たちが訪問するというような形でご協力いただき、少しでも長く自宅で生活を継続されたというかたがいっぱいだったので、地域のかたには非常にお世話になりました。また、1番と2番のテーマが入り組んでしまうのですが、元々のご本人たちの関係性が、何か困ったときに発展していくのだと思います。元々関係ができていて、どちらかの具合が悪くなったときや困っているときに、「ここを助けようか、ここを手伝おうか」となり、相手もまた「ありがとう」と出来ることを返すというような形で、長くご自宅で生活されていたかたが何人もいました。漠然としてしまっていますが、普段からの関わり・関係性を自分で気がつき、地域の中でもきっかけ作りのようなものがあると良いんだろうなと思います。なかなか具体策までは思いつかないのですが、1番と2番のテーマは、非常に密接しているのかなと思っています。
委員	私ども介護老人保健施設は、「待ち」の段階にあり、紹介されたかたが入ってくる施設という立場です。今までのお話を伺い、最初に身につまされたのは、民生委員の方々が何百世帯も2人で持っていることがあるというところ、また、老人会の崩壊など、地域のコミュニティも崩壊しつつあるというところです。コロナ禍の中では、感染するから自宅から出ない、会議等にも参加できない、参加しようにも怖い等、民生委員の方々も本当に頑張っていると思いますが、孤独なご家庭が多いと思います。また、息子さん、娘さんがいらっしゃる家庭が増え、病院等へ行こうにも足がない、行くのが怖いというような形で、治療したいけれどもできないという人たちが多くなると、誰も拾ってあげられないと思います。コミュニケーションを取ろうにも、どうしていいかわからず、家庭の中で困っている人たちが結構存在するのかなと思います。介護老人保健施設は、病院、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターからの紹介により入ってくるという「待ち」の姿勢なのですが、地域のコミュニティが今崩壊してしまっていますが、誰かが各家庭に声掛けを行い、拾ってあげて、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所とかに繋げてくれば、その先のサービスは整っているような形です。これまでは老人会や民生委員という形だったのだと思いますが、その地域のコミュニティを誰かが補助して、これは3番のテーマの「公的なもの」の話になるかもしれませんが、そういうところを掬ってあげて、それぞれのサービスにちゃんと繋げる、手渡しをするというところが、今は必要なのではないかと感じました。

議長	ほかに何かございますか。
委員	私は民生委員ですが、やはりコロナの影響で接点が少なくなっています。今、高齢者に固定電話で電話をかけると出ないケースがほとんどです。そのため、私の場合は、私のスマホと個々のスマホを繋げて連絡しています。「大丈夫？」の一言だけでも、私たちは安心できます。先ほども話に出ていたように、私が把握していない人たちは、道を歩いても今は表に出ていないし、どうしているのかな、と思います。自分が担当しているかたはすぐに分かりますが、そこがちょっと心配だな、と思います。
議長	「地域にとって必要なもの」というと広範囲な話になるかと思いますが、高齢化、少子化、お一人住まいのかたの増加等、様々な面において問題が山積みであり、自治会等では、何とかそういったかたに目を向けられたらと思いつつも、人手やなり手が不足しているという現状でございます。それでは、「②地域にとって必要なもの」と「③公的な助けとして必要なもの」のテーマは、少し重なってくるところもあるかと思いますが、次の「③公的な助けとして必要なもの」に移ります。事務局から説明をお願いします。 ■③公的な助けとして必要なもの
事務局	こちらに関しましては、新たな公的サービスに関するご意見のみならず、地域福祉として、自助、互助、共助をつなぎ合わせる取り組みについてのご意見を賜ればと思います
議長	それでは、「③公的な助けとして必要なもの」について、ご意見、お考えをお願いします。
委員	先日、テレビで観たのですが、地震が起きたときに、各家庭のブレーカーがすべて落ちる感震ブレーカーというものがあるそうです。それが数万円するので、少しでも市から補助があれば、皆さんが家に付けられるのではないかと思います。関西では、地震後に帰ってきたら電気ストーブが燃えてしまう等の火事が起きたそうです。そういうものが必要なのではないかと思います。
議長	先日の地震のときは、高層の建物の中にいらっしゃったかたは大変だったと思います。団地でも、すぐに復旧できる状況ではありますが、高層階の一部でガスやエレベーターが自動的に止まりました。ほかに何か、ご意見はございますか。公的なことですから、要望でも結構です。
委員	大場川がもう少し綺麗にならないものかと思い、生活しています。道沿いからゴミ袋を川に投げ捨てている人を見たことがありますが、怖くて注意もできず、どういう考えでやっているのかなと思います。落書きされている壁があったら、みんなもっと落書きしてしまうような心理なのか、綺麗だったら、綺麗なところを汚さないように気を付けるそうです。川が綺麗になったら、そういうことをする人も減るのではないかと思います。防犯にも繋がると思います。

議長	事務局、お願いします。
事務局	一昔前のことかもしれませんが、大場川の浮遊ごみをなくそうとする会が存在していました。活動の中でそういうごみを取る等、自主的な地域活動が三郷にはありました。それを先導していただいていたかたたちが、もしかするとご高齢になられて、昔ほど活動が活発でなくなってしまったのかもしれませんが。川の綺麗さを保っていくために、地域を越えて繋がっていく。こういう活動があったということは、すごく良いことだと思いますし、これを今後、どうしていくかというところにも繋げていけるといいかなというように思います。
議長	ほかに何かご意見ございますか。市役所への要望でも結構です。
委員	「③公的な助けとして必要なもの」とありますが、この1番から3番までのテーマは全部、ふくし総合支援課の仕事です。また、『第3次三郷市地域福祉計画』という冊子について、中を読めば、色々なことが分かりますが、これを各家庭に配布しても、読まれるかたはあまりいないと思います。このようなことにお金をかけるなら、他にお金をかけた方が福祉課としては良いのではないかと思います。例えば、「福祉課ではこういうことをやっています、回覧お願いします」というような紙を作っても、回覧もまた見ない人が多いです。本当に地域というのは、まとめることが難しいものです。先ほどの話にもありましたが、今は老人会を作っても、すぐ解散してしまうところが多いです。コミュニケーションを取るために老人会を作っても、その中にボスの存在の人がいて、内気な人はなかなか発言できないという場合があります。そうして1人、2人と辞めていくうちに、これはやめた方がいいのではないかとということで、老人会をやめられる町会が非常に多いです。私の町会でも老人会の要望はありましたが、作らないことにしています。また、以前は敬老の日に65歳以上のかたに祝い金を出したり、お赤飯やお饅頭を出したりする町会が多かったのですが、先行きを考えると、どんどん高齢者が増えている状況でそれだけの予算をつけるということは、皆さんの町会費を高齢者のためだけに使っているようなものとなるため、絶対にやっていません。高齢者に千円、2千円を出している場合、ご夫婦で対象になって4千円をもらい、町会費を2千円払うということになると、町会費を払わないで2千円がバックしてくるような話になってしまいます。そのため先行きを考えると、町会費を上手く使う必要があります。例えば、蛍光灯の街灯を電気代の安いLEDに替える場合等、そういうところにお金をかけます。補助金が出るのでそれほどお金はかかりませんが、やはり町会のお金ですから、大事に公平的に使われるのが一番良いのではないかと思います。そのため、このような冊子は、私は毎年色々なところから何冊ももらっておりますが、なかなか無駄が多いように思います。今日の3つのテーマは、全部繋がっているものです。このようにテーマを分けなくても、1つでもいいのでテーマを作って、皆さんのご意見を聞き、「じゃあこういうことをやりましょう、ああいうことをやりましょう」と福祉課のかたに率先してやっていたければ良いと思います。10の質問があるうちの、1つでも採用していただければ。それから1つずつ、1つずつ福祉課のかたも考えて、皆さんの住みよい街づくりをしていただければ一番良いと思います。また、今はこういう時代なので、福祉課の仕事が多すぎるのではないかと思います。大変な中で、こういうものまで作っていただくのはどうなのかな、と老婆心ながら思います。

議長	貴重なご意見をいただきました。ほかに何かご意見がございましたら。
委員	老人クラブでは、コロナの影響により、2年間ずっと彦沢・岩野木・戸ヶ崎などのセンターを利用できていない状況です。会の中では、センターが使えないと寂しいという声が非常に多いです。高齢のかたは、センターへ行くとすごく元気が出ます。利用できないことで、体調を崩したり、家を出なかったり、歩かなかったり、そういう形で影響があることが、最近分かってきました。みんなで食べたり飲んだりおしゃべりをしたりして一日を過ごすことが、こんなに良かったのかということが今頃になってよく分かります。「もうどうしたらいいんだろう」と、みんなからよく言われるのですが、どうしたらいいんでしょうか。早くセンターを使わせてほしいというのが、会のみんなの希望です。
事務局	ご意見としてお伺いさせていただきます。
議長	ほかに何かございますか。
委員	私の親もかなりの高齢で、このところ介護施設に入居したのですが、入居までの間に、色々大変なことがありました。介護認定は、自分で気が付かないと申し込まないと思うので、実際にはもっと多くの力の弱ったお年寄りがいるのではないかと思います。公的な助けとして、例えば肺炎球菌予防接種などは、65歳、70歳、75歳と5年ごとに段階的にやっていると思います。認定制度を、65歳では早いと思いますが、例えば75歳、80歳など区切って、申し込みがなくてもどういう状態なのか訪問するというのを、公的な立場として実施した方が良いのではないかと思います。このところ、自分の親を見ていて思いました。
議長	事務局、どうでしょうか。
事務局	こちらについても、申し出制ではなく定期的にというお話かと思いますので、ご提案としてお聞きさせていただいて、担当課等と調整をしていきたいと思えます。ありがとうございます。
委員	今回、コロナのワクチンを打つのに、みんなWEBで申し込んだと思いますが、お年寄りほとんどできません。コールセンターへの電話は何度かけても繋がらず、何か良い方法はないでしょうか。また、私の住んでいる地域から接種会場へ行くには、車の運転をやめてしまったお年寄りは、タクシーを頼むしかない状況です。
事務局	新型コロナウイルスのワクチンについては、本当に市民の皆様当初予約のところで大変ご迷惑をおかけしたかと思います。担当課が、これから3回目の接種をどうするかといったところで、この課題を振り返りながら新たな方法を考えているということをつい最近伺ったところであります。おそらく3回目を実施するという話になったときに、市から新たなインフォメーションがあると思いますので、それをお待ちいただければと思います。交通手段がタクシーしかないということについても、先日、市内の有償運送の関係会議に、初めて福祉部門も呼ばれて参加いたしました。オンデマンドバス、必要に応じてそれに応えられるような民間の参入も考えていく方向に少し舵を切るといったと

事務局	ところで、そういったきめ細かい交通網について、今、話し合われ始めたところとなっております。これもいずれ進展があると思いますので、その辺りにつきましては、少々お待ちいただければと思います。
委員	先ほどの民生委員さんの話を聞いて、ちょっとお願いしておこうかなと思った件があります。民生委員さんは、1人で受け持つ人数がすごく多いとのことで、生活保護の件なのですけれども、民生委員さんと同じで、生活保護の担当者は1人で100人を受け持つと聞いたことがあります。そのため、本当にこの人が生活保護を受けられる人かどうかというところを把握できず、提出された書類だけ見て、書類が通れば生活保護をその期間だけもらえると聞きました。生活保護の担当者に押し付ける形ではないですが、1人で100人全員を把握できないなら、日頃からやり方を変えて、「本当にこの人は生活保護をもらえる人なのか」と把握してほしいです。もらうべき人がもらわないで、我慢して本当に苦労している人も中にはいらっしゃると思います。
事務局	この件については、生活ふくし課にこの会の中でご意見があったことをお伝えしたいと思います。
委員	先程の私の話の続きになるかもしれませんが、今、町会等でなかなか人が集まらないとお話がありました。先ほどの民生委員さんのお話のように、担当以外のかたがどうしているか分からないとなると、町会単位ではなく、班やごみを集めている範囲の中で、回覧板を見ているかどうか分からないという話もありましたが、回覧板は回るという前提で、その回覧の中に「お助けカード」のようなものがあればいいと思います。そんなに詳しく書かなくてもいいと思うので、自薦他薦を問わず、回覧板が回ってきたときに何か困っていることがあれば「はい」に記載してもらい、回覧が班の中でなかなか回ってこないと思ったら、「誰々さんのところは何か助けが必要なのではないか」と他薦するなど、そういう「お助けカード」を回覧で回してもらうことによって、本当はどこかに助けを求めたいけれど、助けを求められず、電話も掛けられないような人を何とか拾ってあげられるようなシステムを、市の福祉課として実施してもらえたら有難いと思います。
事務局	ありがとうございます。今、班の単位とありましたが、私どもの方でも、イメージの中にある地域の一番小さな集合体なのかなと思っております。困っているということをなかなか訴えられないかたを、逆に掘り起こしていくというのはなかなか難しいものがあると思いますので、一つのご提案の方法として、福祉部内で共有していきたいと思います。
議長	ほかにご意見、お考えはございますか。
委員	防災の観点から、避難所が各地域にあると思いますが、自分がどこの避難所に行けばいいのかという認識を持っていない人がいるそうです。災害の種類によっては、避難所によって向き不向きがあるため一概には言えませんが、また、自分の住んでいる地域の防災のマップを見れば何のリスクがあるのかは分かることではありますが、「このリスクがあったらこの地域の人はこちらに避難」といったタイムラインのようなものをそれぞれの人が明確に意識できるように、分かりやすい勉強の場を市に設けてもらわないと、地域の防災力が上がら

委員	ないと思います。避難所開設準備等についても、コロナ禍により準備の前段階で止まっているところもあると思います。まずは意識改革も必要だと思うので、避難所を開設することも大事ですが、地域ごとでもイベントごとでもいいので、防災、災害について市民が学習する機会があればいいと思います。
議長	自治会・町会がやっている自主防災会との関連がかなり深く、今のご意見をそのまま皆様方にぶつけますが、自主防災会の中でも、集まりや催しを実施してもなかなかこちらの意思が伝わらないということがありますので、おそらく市役所では、その辺りのことについてかなり問題意識を持っていると思います。非常に大事な点であると思いますので、是非ともお考えいただきたいと思います。ほかにもしご意見がなければ、そろそろ時間もかなり経過しておりますので、次へ進めさせていただきたいと思います。
議長	本当に貴重なご意見をたくさんいただきました。委員の皆様、ありがとうございました。今回、初めての試みということで、テーマを掲げての懇話会となりました。「地域の繋がりを持ち続けるために必要とを感じるもの」について、皆様方の立場、地域としての立場、公的機関に対して必要とを感じるものについて、懇談をしていただきました。今後の懇話会のテーマ等について、もし皆様からご意見がありましたら、この場で伺って参考にしていきたいと思っておりますが、何かございますか。この場ではなくとも、地元に戻られたとき、何かお気づきの点がありましたら、ふくし総合支援課に連絡していただければと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは続きまして、事項3、その他について、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	(3) その他 ・新任委員のマイナンバー・債権者登録、報償費の支払い方法について説明。 4 閉会